ヤマハ技術会技報
1995-3 No.19

XJ900S Diversionの紹介

XJ900S Diversion

橋本　政幸*　　倉井　宣好*　　佐野　文基**
Masayuki Hashimoto　Nobuyoshi Kurai　Fumimoto Sano

1　はじめに

モーターサイクルの欧州市場は円高による価格の上昇及び経済不況のあおりを受け，この２年売上台数は特に日本車を中心に減少しているが，その中で600ccクラスの中間排気量においては，リスタータなどのアダルト層の参入があり好調を持続している．こういった拡大するソフトカスタマー層に，より大きな楽しさを提案し，ステップアップを促進させ，モーターサイクルの客層としての確立を図るためDiversionシリーズの上級モデルにあたるXJ900S Diversionを開発した．（写真１）

2　開発の狙い

開発の狙いは図１に示すようにXJ600S Diversionと同様の「手軽に乗れる」ということを基本機能としている．これは例えば，体に苦痛を強いたり，恐さを感じたりしないことはもちろん，幅広い用途で気楽に乗ることを楽しむというような意味も含んでいる．そして，この基本機能を残しながらも本モデルでは600ccからのステップアップを促すために，より大きな楽しみを提供することも狙いとした．特に「ツーリングの楽しさ」やそのツーリングの中で峠道などでの「スポーツライディングの楽しさ」を十分味わってもらうことを主眼に置いた．また環境問題や盗難等でその楽しさを損なうことがないよう「社会性」という面でも注意を払っている．

写真１　XJ900S Diversion

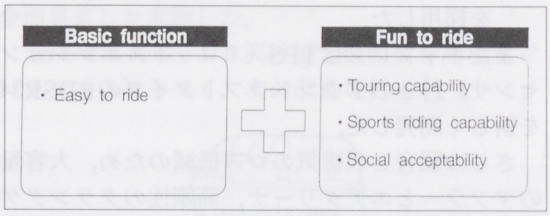


図１　開発の狙い

3　仕様概要

3.1　３つの要素

本モデルの開発にかかる前に欧州のインポーター，販売店及びカスタマーの調査をし，また実際に欧州市場をツーリングしてみた結果，開発の狙いを達成するために，我々は図２に示すような３つの要素を取り入れることに決めた．

第一は扱い易く，また十分な楽しさが得られるよう900ccの排気量で，かつXJ600Sでお客様から圧倒的に支持を得ている空冷前傾エンジンを採用したことである．

２番目には日常あるいはロングツーリングの際にメンテナンスフリーで気を使わなくてよいシャフトドライブの採用．

そして最後は高速道路の走行や峠道でのスポーツライディングでの直進性や操縦性を満足するワイドフレームの採用である．

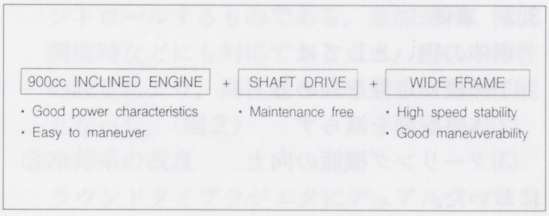


図２　３つの要素

* モーターサイクル事業本部　第１開発部
** モーターサイクル事業本部　第４開発部

3.2 エンジン

XJ900Sでは，シンプルでメンテナンスが容易でコストが安い空冷エンジンを採用した．

エンジンの狙いとしては

(1)スムーズで扱い易い

(2)中低速の重視

(3)スロットルレスポンスの向上

においた．

その狙いを実現するため

・燃焼室形状を変更し圧縮比を向上．

・前傾エンジン採用で極力，吸気通路をストレート化．

・中低速狙いの吸排気バルブ径とカムシャフトを採用した．

またキャブレタはTPS（スロットルポジションセンサ）付きのダウンドラフトタイプのBDSR34を新しく開発した．

さらに騒音と吸排気のロス低減のため，大容量のマフラーとエアクリーナ，高剛性のクランクケースとケースカバーを採用している．一方，「社会性」という側面から全仕向地に排気ポートに２次空気を導入して未燃焼ガスを再燃焼させる図３に示すようなAIS（エアインダクションシステム）を装着した．このAISの装着により，COで40%，HCで30%それぞれAISなしに対して排出ガス浄化率が向上した．

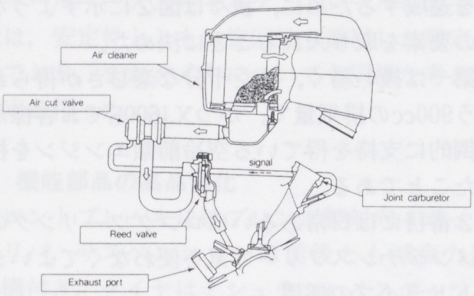


図３　AISシステム

3.3 車体

車体の狙いとしては

(1)操縦安定性を高める

(2)体感振動を減らす

(3)ツーリング機能の向上

においた．

そのために，全体レイアウト時に

・ホイールベースを伸ばす．

・前輪分布荷重を高める．

・オールラバーエンジンマウントの採用．

・シャーシの剛性を高めるためタンクレールの幅が広いワイドフレームを採用．

などのの施策をうった．（図４）

またシャフトドライブの加減速時の姿勢変化をできるだけ押さえるディメンジョンを採用した．ツーリング機能の向上では，シート座面を余裕あるものにして楽で疲れないライディングポジションにすること，カウリングやスクリーンによるライダープロテクションの向上，タンク容量の増加，燃料計，時計や小物入れの設置を考慮した．用品としてもサイドケースや盗難防止用のU字形ロックを準備した．

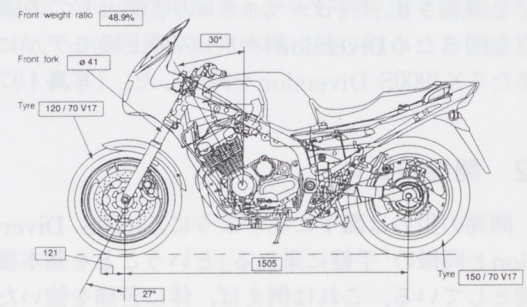


図４　全体レイアウト

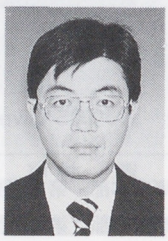
4 おわりに

'94年９月にオーストリアを中心に１泊２日のツーリング形式で行われた欧州ジャーナリスト発表試乗会において「オールラウンドバイクとして大変良いバイクだ．」というコメントに代表される大変高い評価をいただいた．

今後共，息の長いモーターサイクルとして，熟成していきたいと考えている．

■著者

橋本　政幸


倉井　宣好

佐野　文基